

令和6年度調布市見守りネットワーク事業関係団体連携会議

～グループワークごとの意見交換～

テーマ:ひとり暮らしの方の見守りの仕方について(参加団体より)

【おかしいなと思うポイント】

- ・話がかみ合わない。表情や身なりがいつもと違う。
- ・来所頻度が多くなる。同じ話や手続きを繰り返す・要請や相談が度々ある。
- ・配達した品がそのまま置いてある。
- ・普段参加している活動に参加がなかった時。

【包括への連絡をためらう場合はどういう時か】

- ・個人情報の取り扱いで、クレームに繋がる可能性があると感じているため。
- ・本人の同意を得られない時。
- ・地域包括支援センター等他の事業所への連絡を希望しない時。
- ・社内で連絡ルールが確立していないため。
- ・どの程度であれば、連絡してよいか分からない。(世間話を1時間以上するなど、グレーな方はどうお知らせしたらよいのか・・・)
→ただ、対応に困っているのも事実である。本人と関わる時にどこからの通報かは伏せて対応できるという話を聞け、それなら通報できるかもしれないと思った。
→地域包括支援センターの職員から些細な心配ごとから相談して良いという言葉が聞け、安心した。
- ・本人に了承を取って、地域包括支援センターに通報するが、・・・対応についての報告がない場合がある。
→地域包括支援センター職員より、いただいた情報については、個人情報に配慮した形にはなりますが情報をご提供いただいた方にさせていただきますと説明させていただきました。

【一人暮らしかどうかの把握について】

- ・本人と会話をしている中で。
- ・契約時に確認。

【団体として高齢者を見守りの仕方について気をつけている点】

- ・認知症の心配がある方は、家族の連絡先をおさえるよう努めている。
- ・事業所単位で努力している部分はあるが、個人情報等配慮しなければいけない点も多い。
→今回の会議に参加して知りえた情報を社内に持ち帰り共有したい。

【地域包括支援センター職員からのご案内】

- ・ひとり暮らしの方は、何かあった際の発見が遅れることが多いのが現状です。ささいな事でも通報して欲しいと思っています。地域包括支援センターでも情報を共有させて

いただくことにより、必要な支援につながることもあると考えております。

- ・ご本人の意向もあるため、速やかなサービスに繋がらないこともあるかもしれませんが、情報をいただくことにより、その方の状況を地域包括支援センターが把握できることになるため、継続して状況の確認をしていくこともできるかと考えています。
- ・通報元については本人には伝えずに、地域を回っているというようなスタンスで訪問しています。そのため、どこの事業者や個人から通報があったから訪問をしたということにはいたしません。
- ・本日の資料にもありますが、社員の啓発のための出前講座の開催が可能です。時間も極力相談に応じて開催いたします。
⇒本日の資料の中に開催可能な出前講座の一覧がありますのでご検討をお願いします。

【その他】

- ・連携会議の中で話ができました「各地域包括支援センターの連絡先等を記載した名刺サイズのカード」を作成中です。ご希望の協定団体様は、高齢者支援室までご連絡をお願いします。作成後、担当地区の地域包括支援センター職員が持参させていただきます。

※使用方法：各団体様で支援が必要と思われた場合、お客様（該当の方）の住所地の担当地区の地域包括支援センターのカードをお渡しいただき、「お困りのことがあれば、なんでも相談にのってくれます。」とお伝えください。